

令和4年度 教員地域貢献活動支援事業（学長裁量事業）

地域実践研究 成果報告書

本事業について次のとおり成果を報告します。また、当該事業の経費執行については、規程等を遵守し適正に使用しました。

1 研究課題名

未来につなぐ持続可能な街を目指した「ファンづくり」：領域横断的アプローチによる地域連携の実証研究

2 研究代表者

氏名	柴田典子
所属	国際商学部
職位	准教授

3 チーム構成

氏名・所属・職位	有馬貴之・国際教養学部・准教授
氏名・所属・職位	陳礼美・国際教養学部・教授
氏名・所属・職位	黒木淳・国際商学部・准教授
氏名・所属・職位	

学生の協力者（代表）

氏名・所属・学年	伊林彩里・国際商学部・3年生
----------	----------------

4 連携相手先

組織名	横浜中華街発展会協同組合
-----	--------------

※連携相手先以外で、本事業に協力した・参画した機関等（該当がある場合記載）

組織名	
-----	--

5 この研究活動の概要

横浜中華街を対象として、持続可能な街づくりを目指した多面的な「ファンづくり」のあり方を検討し、実証研究を行う。国際商学部、国際教養学部の4ゼミがチームを組み、マーケティング、観光、消費者行動、高齢者福祉、会計による領域横断的な研究体制を構築し、横浜中華街発展会協同組合と連携して取り組む。地域との連携および領域横断的アプローチによる相乗効果とソーシャル・イノベーション創出の機会となることが見込まれる。

6 この研究を実施する目的

[本研究テーマとなる地域課題の背景と、その課題に取り組む意義]

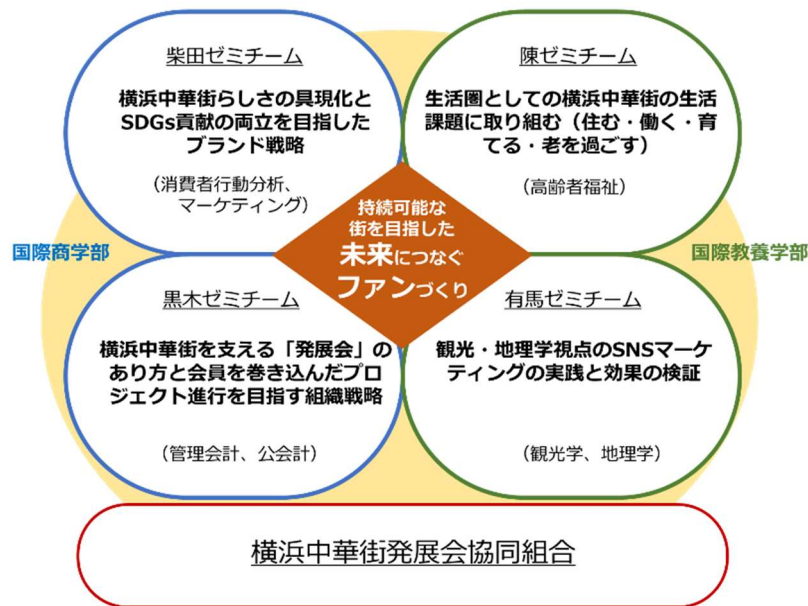


図1 領域横断的なアプローチ体制

日本と中華の人々が協力して作った街である横浜中華街は、1980年代頃から観光地化が進み、全国から多くの観光客が訪れる街である。横浜中華街発展会協同組合は、横浜中華街が持続的に発展できるよう、街としての在り方について1990年代半ばから取り組んでおり、観光地としてだけでなく、経済、生活文化、地域創生など地域経済を担う存在として街の発展に尽力している組織である（横浜中華街発展会協同組合理事長高橋伸昌氏 2022年1月17日講演資料）。

横浜中華街はビジョンとして、①持続可能な社会と経営を実現するため、街と個店の利益と価値を向上させる「共創まちづくり」、②みなとみらい地区など近隣地域との連携強化による地域活性化を掲げている。

その一環として横浜中華街発展会協同組合では、「中華街を大好きな人々を中華街の外に作りたい」「将来につながるファンづくりを、地域の大学生とともに取り組みたい」との意向を持っていたことから、2021年度に「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」を立ち上げた。本プロジェクトは、国際商学部の柴田典子、黒木淳、国際教養学部の有馬貴之、陳礼美の2学部4名の教員とゼミ生（参加学生44名）で構成した。

横浜中華街のファンづくりに向けた地域理解および課題発見と、今後の連携活動の在り方を探索することを目的として、「横浜中華街散策」、「発展会と学生の座談会」、「発展会理事長後援会」、さらに「1dayワークショップ」を実施し、今年度連携活動の基礎とした（参考：2021年度ヨコイチ×横浜中華街プロジェクトについて <https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2021/20220217chukagai.html>）。

横浜中華街を対象として、持続可能な街づくりを目指した多面的な「ファンづくり」のあり方を検討し、実証研究を行うことは、地域との連携および領域横断的アプローチによる相乗効果とソーシャル・

イノベーション創出の機会となると同時に、社会課題の解決につながる価値創出の機会としての大学と地域、企業との連携体制を構築することによって他の地域・企業に適用可能なフォーマット開発につながる。そして、複数の学部からなる総合大学としての地域貢献の特色となる。

[本研究のセールスポイント]

本研究の独自性は、次のとおりである。

- ① 国際商学部、国際教養学部の4名の教員およびそのゼミ生がチームを組み、マーケティング、観光、消費者行動、高齢者福祉、会計による領域横断的な研究体制を構築し、横浜中華街発展会協同組合と連携して取り組むこと(図1)。これにより、多面的に地域課題を捉え、アプローチすることが可能となる。
- ② 学生が参画することにより、地域理解と将来を担う人材育成の機会となる。
- ③ 全国区の商業地域である横浜中華街との連携活動であること。そのため、他の地域・企業に適用可能な仕組みづくり(フォーマット開発)につながる。
- ④ 2021年度にベースとなる一連の活動を行っていること(8.[これまでの準備状況]を参照)。

[本研究で何を、どこまで取り組みたいか]

本研究の実施により、地域に存在する一つの視点ではなく、複数の視点から総合的に課題を発見し、かつその解決に取り組むことができる。それは複数の学部からなる総合大学としての地域貢献の特色となるが、実際にその仕組みづくりを実証的に検証した研究は多くない。

本研究は3ヶ年の計画とし、他分野からなるゼミが横浜中華街の方も含めどのように調整し、かつ情報共有を行っていくかを都度整理する。そのことによって、総合大学ならではの地域貢献としての有用性と課題を検討する。そこには、大学独特のカリキュラムや単位、学生等の問題も存在するであろう。言い換えれば、「地域貢献」を通して学内の学びの不足分を理解することにつながる。

他方、本研究は社会課題の解決につながる価値創出の機会として、大学と地域、企業との連携体制の構築のフォーマット開発につながる基盤ともなる。

7 実施した内容（スケジュールと具体的な活動、実績、成果）

2022 年度に実施した内容とスケジュールは、以下の通りである。

2022 年度中、継続実施

太極拳の集いへ参加し、シニアの方々との交流
発展会との定例ミーティング（5月から週1）
発展会広報部会との不定期ミーティング
教員間定例ミーティング
横浜中華街フィールドワーク

2022 年 4 月 本活動の方向性確認

6 月 高橋理事長による横浜中華街の文化・歴史を学ぶ街歩き
横浜中華街コンシェルジュによる横浜中華街の文化・歴史を学ぶ街歩き
曾徳深氏による横浜中華街の文化・歴史を学ぶ講話会
観光地に関する消費者インタビュー実施（定性調査）
横浜中華街街頭調査：横浜中華街の未認知課題発見と来街者ニーズを探るためのインタビュー実施（定性調査）
横浜中華街街頭調査：来街者の現状把握と来街者アンケート実施（定量調査）
「横浜中華街おはなし会」開始（計6回）
人流データ分析開始

7 月 AVEX・発展会・ユーラシア文化館による AR プロジェクトへの参加開始
横浜中華街高齢世代意識調査実施（定量調査）

8 月 横浜中華街に関する一般消費者向けアンケート実施

8 月 2 日 ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト 中間報告会
発展会公式 SNS シールアンケート実施

発展会公式 SNS 改善実証実験

食べ残しの持ち帰り「打包」個店実施実証実験

10 月 日本学生経済ゼミナール関東部会インナー大会予選に出場（学生）

11 月 上記大会で決勝に進出。本選出場（準優勝）

昭和中華街インタビュー開始（ライフヒストリー調査）

12 月 横浜中華街発展会協同組合組合員に対する発展会活動に対する満足度調査の実施

横浜中華街における学割&マップに関するワークショップ実施（学内）

発展会に「飯ガチャ」イベント提案

2023 年 1 月 「打包」POP、ポスター設置（協力店）

横浜中華街公式 WEB サイト内ショッピングサーチにおける「おすすめタグサーチ」のタグ提案と実装

1 月 28, 29 日 紅包くじアンケート内での春節飯ガチャ（社会実験）実施
紅包くじ購入者へのアンケート調査実施

2 月 4 日、5 日 //

1 月 30 日 ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト 4 ゼミ報告会

2 月 発展会公式 Instagram 改善に向けた実証実験（1ヶ月間）

2 月 22 日 ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト 年度末報告会

3 月 本事業の振り返りと次年度計画設計

8 この研究により得られた効果と自己評価

2022年度は、持続可能な街づくりを目指した多面的な「ファンづくり」のあり方を検討し、実証研究をおこなった。2021年度に事前準備としてフィールドワークや座談会、ワークショップを実施していたことが功を奏し、スムーズに開始することができた。専門領域の異なる4ゼミで、それぞれのアプローチ方法を採用したことにより、総合的に、居住地・商業地・観光地としての横浜中華街を多面的に捉えることができたと感じている。教員、学生ともに、視点の違いによる発見を得ることができ、加えて自分たちのアプローチの位置づけを明確化することにつながった。

学部と専門領域の垣根を超えたプロジェクトであることにより、横浜中華街に関する基礎調査も多面的に実施することが叶った（横浜中華街来街者調査、居住者であるシニア層調査、横浜中華街発展会協同組合員調査、イベント参加者調査など）。

実証実験を含む実践的活動においては、事前の基礎調査の結果を踏まえた体系的な戦略立案とそれに基づく施策策定が必要となるため、多くの時間を費やすこととなったが、単発的な施策実施ではなく、本質的な課題解決につながる実証実験および施策を実施することができた。

発展会や横浜中華街の方々との定期的なディスカッションやコミュニケーションの機会により、本事業参加学生たちの、社会や地域の一員としての意識が醸成されていった点も、横浜中華街の未来につながるファンづくりにおいて重要な成果である。

地域との連携活動のプラットフォームの基盤づくりとして、有益な1年間の事業であった。これを継続していくことで、本学および横浜中華街発展会協同組合双方にとって、他の地域や組織、大学との連携活動にも応用可能なフォーマット開発につながると考えられる。

9 今後の課題と展開

4教員4ゼミの専門性にもとづく知見の共有方法を一層工夫し、さらなる相乗効果を目指すことが課題である。具体的には、下記の点があげられる。

- 2022年度はいわゆる「異分野連携」の形式であり複数の分野がそれぞれの範疇で共通の目標達成を目指した。専門性の深化のためにこの形式は重要であるため継続が必要。
- 他方で、今年度は自身の専門と異なる他の分野と対話し異なる研究観に触れることで、固定観念から解放され新たな視点取得につながる「異分野融合」も意識して取り組む。
- そのために、情報交換とディスカッションの場の再構築をおこなう（4ゼミメンバー共同での活動の創出、共同のTeamsクラス、slack、オンラインワークスペースの活用）
- 前年度活動の継続方法と新規の活動の進展の両立

日本最大かつ東アジア最大の商業地域である横浜中華街との連携活動を行うことで、社会課題の解決につながる価値創出の機会としての大学と地域、企業との連携体制の在り方を類型化するなどして、横浜中華街以外の商業地、観光地、居住地に適用可能な仕組みづくり（フォーマット開発）に発展させたい。同時に、学生が参画することにより、地域理解と将来を担う人材育成の場として、関係人口を増やしたいと考えている。

10 本事業に関する研究発表、メディア掲載等（予定を含む）

※論文の場合は、論文名、著者名、掲載雑誌名等を記載してください。

横浜中華街の発展に貢献。感謝状が贈呈されました。|横浜中華街のファンづくりのため、学生がアイデアを提供

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/20221024yokohama-chinatown.html>

フードロスへの取り組みも！横浜中華街×横浜市大&関東学院大の「未来と一緒に未来をつくる」始動中!!

<https://lovewalker.jp/elem/000/004/110/4110249/>

第62回日本学生経済ゼミナール関東部会インナー大会プレゼン部門において、「横浜中華街らしさを活かした持続可能で未来につながるファンづくり」が優秀賞を受賞（119チーム中2位）（ゼミ生による研究活動報告）

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/20230203inner-cup.html>

「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」2022年度最終報告

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/20230324yokohama-chinatown.html>

朝日新聞（2023/2/14）「横浜の歴史資料デジタル化」